

企画名：福島市の野生ニホンザルにおける放射線被ばくの次世代影響評価(2年目)

団体名：羽山伸一

1. 報告要旨

東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の爆発で放出された放射性物質に、福島県東部に生息するニホンザルが野生霊長類としては世界で初めて被ばくした。申請者は2008年から福島市に生息する本種を対象に妊娠率などを観測してきたが、次世代影響としての胎子の体成長および脳の発達を被ばく前後で比較し、それらの成長遅滞を明らかにした(Hayama et al, 2017)。本研究では、次世代影響を評価するため、被ばく後10年間における胎子成長の経時的変化を観察し、胎子成長と母サルの相対的内部被ばく量との関係を検討し、関連性を明らかにした(公表準備中)。

2. 成果物

1. Hayama S. et al. (2021) Reproductive characteristics of Japanese monkeys on Shimokita Peninsula, Japan, the northernmost habitat of wild primates in the world. *J. Vet. Med. Sci.* 83(9): 1389–1394.

<https://doi.org/10.1292/jvms.21-0141>

(福島のサルにおける繁殖率への影響を判断するための比較研究)